

お宝発掘

蓑島邸



酒とっくり

昔のお酒はこの容器に入って売られていました。



燭台（しょくだい）

灯りを乗せておく台です。(明治前)



井戸車・井戸縄

井戸の水を汲むときに使う縄と、井戸の上につける滑車です。(昭和まで使用)



井戸つるべの桶

上にある井戸縄に取り付けて、井戸の水を汲む桶です。



木製ポンプ

火事のときに、下に水を入れた桶を置き放水していました。



鍬（くわ）

4本がセットになっていて、雨で畑が荒れたときに使用していました。



鍬（くわ）

畑を耕す道具です。



押し切り（おしきり）

ワラを切る道具です。



秤（はかり）

棒の先にモノを下げ、おもりの位置で重さを量ります。（重さの単位は「貫」）



樽（たる）

しょうゆを作るときに使っていた樽です。



蒸籠(せいろ)

もち米を蒸すときなどに使用しました。



木鉢（きばち）

そばやうどんを打つときに使用しました。昔は物を大切にしたので、銅版などで補修してあります。



万石（まんごく）の網

精米したときにお米をよりわけの道具です。網を斜めにして上からお米を流して使います。



四斗樽（よんとだる）

味噌やたくわんを漬けていました。



酒樽（さかだる）

お酒を入れる樽です。



薪割り

5本とも薪を割る道具です。



ちょうな

大工道具の一つで、主に梁や柱を荒削りする際に使用しました。



麴板（こうじいた）

この中に米と麴菌を入れ、寝かして、麴を作っていました。



麴板（こうじいた）

同上



蓑（みの）

雨にぬれないために着ていた。現在のカッパのようなものです。

(左)しゅろの木、(右)ワラ



おかもち・桶

煮物などを入れていました。



麦作農具

麦作の際に砂を入れ、畑にまいていました。



鋤簾（じょれん）

畔（あぜ）作りや堰（せき）にたまった泥などをすくいとる道具です。



はぎり

味噌を作る際に、これに大豆を入れ足で踏みました。



蚊取り線香入れ

蚊取り線香を入れ、中で焚いていました。



木製柄杓（ひしゃく）

水や小便を移す際に使用しました。



鎌（かま）

この鎌は、木の皮を剥く際に使用しました。



油徳利（とっくり）

油を入れていた容器です。



かまど

鍋や釜をかけ、下から火をたいて煮炊きする道具です。



杵・臼（きね・うす）

餅をつく際に、臼にもち米を入れ杵でついていました。

(臼は逆さまになっています)



石臼（いしうす）

そばの実などを粉にする道具です。また、粉は下にたまるように工夫されています。



こうり

竹や柳で編んだ箱形の物入れです。



足踏脱穀(だっこく)機

回転を利用して稲穂 (いなほ) からモミをとる道具です。



小便桶(しょうべんおけ)

糞尿 (ふんにょう) を入れるための桶です。



かます

肥やしや作物を入れておくワラの袋です。



圧力釜(あつりょくがま)

お米を炊くための釜です。



焙炉（ほいろ）

お茶の葉を乾燥させる道具です。下から炭で温め使用します。



とびくち

火事の際に、燃えたところを壊す道具です。名前は先端がトビの口に似ていることからこう呼ばれています。



たらい

水を入れたり、洗濯をしたりする際に使用していました。ちなみに、ご長男の産湯にも使われました。



貯穀器（ちょくき）

お米を保存するための器です。これには5
表のお米を貯蔵できます。(昭和20年～平
成16年まで使用)



じょうご

米俵にお米を入れる際に使うじょうごです。



一斗枡（いつとます）

1斗の量を量る枡で、右の棒ですり切りま
す。



ちゃぶ台

足が折りたためるちゃぶ台です。



文庫

書物を入れておくものです。これは、机のよ
うに開くことができます。



長火鉢

居間・茶の間などにおく、長方形の箱火鉢です。さらに、引き出しなどがついています。



火鉢

灰を入れ、中に炭火をおこして、暖房や湯沸かしなどに使用されていました。



木の火鉢

木でできた火鉢です。



お茶の道具

お茶のときに使う道具です。金属製のものは銅でできています。



型

料理用の型です。



番傘（ばんがさ）

雨が降ったときに使う傘です。和紙に油を塗って水が染みないようにしています。



下駄（げた）・ぞうり

昔の靴です。高さの高い下駄は雨の日に履きます。



爪皮（つまかわ）

雨や泥などをよけるために、下駄などのつま先につけるおおいです。



ゲートル

戦時中に兵隊が、足の保護のために足に巻いていました。



机

神様にお供え物をする際の机です。



石油ランプ

灯油を燃料とするランプです。ガラスや金属製の壺に灯油を入れ、芯に含ませて燃焼させ、灯りにしていました。



ろうそく

ろうそくに火を灯し、灯りにしました。



豆油ランプ

なたね油を下のお皿に入れ芯に染みこませ燃焼させ灯りにしていました。



豆油入れ

豆油ランプに使う、なたね油を入れておきます。普段は右の金属製の箱にしまっておきます。



灯籠（とうろう）

中にろうそくを入れ、外で使用する灯りです。



アーク灯

ブリキでできたライト。中に水とカーバイドを入れ、ガスを発生させ、それを利用しました。



あんか

炭を入れ、布団の中に入れて、布団を暖めるために使います。



煉炭(れんたん)ストーブ

煉炭を燃やし、熱を得るストーブです。



小猿鉤（こざるかぎ）

囲炉裏（いろり）の上にある棒（自在鉤）の高さを調節するための横木です。



手桶（ておけ）

水などを入れておく桶で、現在のバケツのようなものです。



手洗い用の壺（つぼ）

トイレで手を洗うために水をためる壺です。
さらに、底に穴が開いていて、押すと水が
出てきます。



碇（いかり）

井戸の中に桶などを落としたときに、この
碇で探し、引っ掛けて取りました。

蓑島邸



発掘終了